

## (1) 資料提示の工夫（小学校）

先人の生き方やスポーツなどを扱った資料において、より効果的に資料を活用するために、どのようなことを心がければよいですか。

感動を覚えるような資料、生きる喜びや勇気を与えるような資料などを通して、児童が自分の生き方についての考えを深めることができるように、資料提示にも工夫が必要です。

### 実践事例の紹介

学習プログラム：津田恒美「もう一度投げたかった」を用いた実践

#### 1 児童の実態に応じて資料の内容を工夫する

学習プログラムに掲載されている津田恒美「もう一度投げたかった」の資料を用いた実践を行った。中学校用の資料で内容が野球の話や重い病気の話であるので、児童の実態に応じて、資料の内容を一部作り直して提示した。

#### 2 プレゼンテーションソフトを使って資料提示を行う

学級の中には、津田投手について知らない子、野球への関心が低い子もいるため、登場人物の言葉をシートとして準備したり、写真やビデオを使ったりしながら、教師の語りで資料を紹介し、より臨場感が生まれるように工夫した。



#### 【準備したシートの例】

##### おさえのプレッシャーと闘う

ストッパー4年目 平成元年  
12勝5敗28セーブ  
最優秀救援投手賞に輝く

##### 「炎のストッパー」

(魂をこめてストレート投げ込む)  
自分の弱気と闘い続けた

##### ついに告白を決意

本当のことを聞いた津田投手は、何と  
言ったでしょうか。

↓

子どものように泣き

「それじゃ、オレはもう助からんのか！」

「みんな知ってたんか？オレあと何年  
生きられるん？もう生きとってもしゃあ  
ねえ……」

##### あの日から津田投手は変わった

「オレは、絶対に治るのだ。もう  
一度マウンドに立つのだ。」  
そういう信念を持って、闘病を  
始めた。

##### 病気・弱気と闘う決意

#### 資料提示の工夫

- ◎ 登場人物の具体的な行動や考えをとらえることができる資料を準備しましょう。
- ◎ 児童の実態に応じて、写真やビデオ等で登場人物の活動を紹介するなど、提示の仕方を考えましょう。
- ◎ 資料の山場を明確にすることができるように、資料の構成を工夫し、提示する内容を精選しましょう。

## (2) 道徳授業での発問構成（中学校）

道徳的価値の自覚を深め、自分を見つめることができるようにするために、どのような発問構成が考えられるでしょうか。

発問は、生徒の思考や話し合いを深める重要な鍵です。最も考えさせたいことを中心にするとともに、生徒の意識の流れも予想しながら、構成を考えていくことが大切です。

### 実践事例の紹介

#### 1 ねらいとする価値への方向付けを図る発問をする

- ねらいに向けた動機付け  
ねらいにかかわる生活経験や日常生活における問題について問う。
- 資料を理解するための情報提供  
資料の背景を説明し、資料に対する興味・関心や問題意識について問う。

#### 2 ねらいとする価値の追求・把握を行う発問をする

- 多様な価値と出会い、自分の感じ方や考え方を再確認するために、次のような発問をした。
  - ・ 「登場人物はどんなことを考え、どう感じたと思うか。」
  - ・ 「登場人物の言動をどう思うか。」
  - ・ 「自分だったらどうするか。同様な面が自分にもあると思うか。」
  - ・ 「この資料で伝えたいことは何か。」



#### 【生徒のワークシート】

まだ夢ははっきりしているわけではないけど、いつか〇〇さんみたいに自分がしている仕事に誇りがもてるような仕事につきたい。自分の道を自分で決めて、負けずにまっすぐ歩きたい。

#### 3 把握した価値に照らして自分を見つめさせる発問をする

- 自分の問題として受け止めさせるために、次のような発問をした。
  - ・ 「登場人物のような生き方は、参考にできないか。」
  - ・ 「登場人物と同様の経験はないか。また、その時にどう思ったか。」
  - ・ 「これからの自分について、心ひそかに思っていることはないか。」

### 道徳授業での発問構成

- ◎ 生徒の感じ方や考え方を事前に把握して、中心発問と前後の発問を考えましょう。
- ◎ 導入、展開、終末の段階での指導のポイントを明らかにして、発問の構成を考えましょう。
- ◎ 生徒の反応やつぶやきを生かしながら、発問を精選しましょう。

### (3)ねらいに迫る発問づくり（小学校）

小学校の低学年では、ねらいに迫ることがなかなか難しいとすることがあります。発問づくりにおいて、どのようなことを心がければよいですか。

児童の意識の流れを予想し、道徳的価値への気づきを促す発問や自由な思考を促す発問など、発問の目的を明確にすることが大切です。

#### 実践事例の紹介

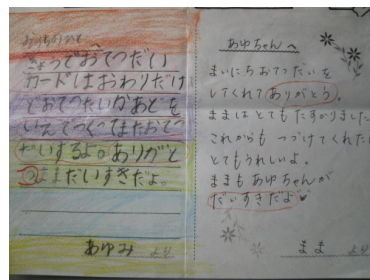
学習プログラム：金子みすゞ「こだまでしょうか」を用いた実践

#### 1 発問を組み合わせ、道徳的価値への気づきを確認める

- ① 「冷たい言葉が同じように返ってくるのはどうしてか。」
  - ② 「温かい言葉が同じように返ってくるのはどうしてか。」
  - ③ 「みすゞさんは、どちらの言葉をこだましてほしいと思って、この詩を書いたか。」
- ①、②の発問で、言葉が同じように返ってくるのは、自分の心が言葉を通して相手に伝わり、相手が自分と同じ心になるからであることを確かめた。そして、③の発問で、「あったか言葉」が気持ちよいことを確認し、子どもの心の中にある「もっと友だちとなかよくなりたいたい」という願いを自覚できるようにした。

#### 2 体験をもとに、多様な考え方を表出させる

- 「あったか言葉はどうしたら言えるでしょうか。」
- 児童が気持ちよいと感じる「あったか言葉」を言うために必要なものを考えさせる発問を位置付けた。ここでは、1年生という発達段階を踏まえ、思いやりの心についてより深くとらえることができるように、生活科での「家族との手紙」を紹介した。家族との交流で温かさや快さを感じた体験を想起させることで、児童は思いやりの心をもって人に接することの大切さを実感し、もっと多くの人に広げたいという気持ちにつないでいくことができた。



#### ねらいに迫る発問づくり

- ◎ 児童の発達段階を考慮して、発問の組み合わせを工夫しましょう。
- ◎ ねらいに迫るために、中心発問をはっきりとさせて、授業に位置付けましょう。
- ◎ 児童の体験したことや振り返ったこと、これからの願いなどが多様に生まれるような発問を考えましょう。

## (4)ねらいに迫る発問づくり（中学校）

一部の生徒の発言と教師の話で授業が展開してしまいます。できるだけ多くの生徒の活発な意見交換により、ねらいに迫る授業にするためにはどうすればよいですか。

発問によって生徒の問題意識や疑問などが生み出され、多様な感じ方や考え方が引き出されます。そのためにも、発問の意図を明確にするとともに、授業の山場における中心発問を精選する必要があります。

### 実践事例の紹介

#### 1 自分の立場を明らかにする

「登場人物は〇〇すべきか、否か。」のような発問により、自分の立場を明確にさせた。生徒が、それぞれの立場を選択した理由は様々なので、その理由を発表し、自分の立場の正当性を主張することにより、活発な意見交換を行った。



#### 2 互いの根拠を確かめる

「互いの根拠を考えてみよう。」という発問で、ねらいに迫る共通する考えに気付かせた。自分の立場を主張するだけでなく、相手の立場の根拠についても考えることができるように、教師は話し合いの進め方等を工夫する必要がある。そして、意見交換を通して、それぞれの大切にしている道徳的価値が明らかになったり、場面や状況によって立場が変わったりするなど、授業のねらいに迫ることができた。



#### 3 生徒の反応をもとに、発問を吟味する

道徳の時間は、原則として学級担任が行う。しかし、校長や教頭、副担任等も含めて、それぞれの専門性を生かした道徳授業を行うことも考えられる。本校では、道徳授業を行った後、発問に対する生徒の反応をもとに道徳授業づくりについて活発な情報交換を進め、代案を出し合い学習指導案の修正を行っている。そして、研修の成果を学校の財産として累積している。また、生徒は、学級担任はもとより、学級担任以外の道徳の時間にも新鮮さと期待感をもち、楽しみにしている。

### ねらいに迫る発問づくり

- ◎ 生徒の立場や理由を明らかにする発問を考えましょう。
- ◎ 生徒の感じ方や考え方の違いを生かして、発問を考えましょう。
- ◎ 発問に対する生徒の反応をもとに修正を加え、よりよい発問になるように研修を深めましょう。

## (5) 実感を深める活動の工夫（中学校）

生徒の実感したことをもとに道徳的心情を高めていきたいと思いますが、どのような活動が考えられますか。

生徒は、様々な道徳的価値にふれて、感じたり、考えたりして、心を動かしています。その心の動きと指導が響き合うように授業づくりを工夫していきたいものです。

### 実践事例の紹介

### 学習プログラム：山根基世「命の河」を用いた実践

#### 1 「命」を実感する活動を位置付ける

- 誕生間近の赤ちゃんの心音と自分の脈との比較  
テープに録音した心音を聞かせ何の音かを考えさせた後に、自分の脈と比較させながらもう一度聞かせた。速さの違いや心音の不安定なリズムなどにふれながら、生まれてこようとしている命と自分の命を実感させることができた。

#### 2 「命のつながり」を実感する活動を位置付ける

- 生命の連鎖を示した図の提示  
自分につながる祖先の多さを5代前、10代前など具体的な数値でとらえさせることで、命のかけがえのなさや自他の命の大切さを実感させることができた。

#### 【生徒のワークシート】

今、私は普通に生きて、過ごしているけれども、私の前にはたくさんの命がつながっていることを知りました。私だけの命じゃなくて、今までつないだ命なんだと思いました。命のバトンを次へ次へとつなげていったら、どんなにすごいことだろうと思いました。

#### 3 「命の重み」を実感する活動を位置付ける

- 超音波映像による胎児の確認
- 誕生時と等身大の人形の活用  
ワークシートで胎児の成長の過程を確認した後に、子宮の中で動く誕生間近の胎児の様子を超音波映像で確かめた。母親のおなかの中での大きさを定規で確認したり、誕生する時と等身大の人形を抱いたりして、視覚や触覚等を通して命の重みについて実感させることができた。



### 実感を深める活動の工夫

- ◎ 生徒の実態から、見たり、聞いたり、ふれたりするなどの活動を工夫して授業に位置付けましょう。
- ◎ 実感を伴う活動における生徒の反応やつぶやきを取り上げて、ねらいに迫るような授業をしましょう。
- ◎ 生徒が感じたことや考えたことを書いたり、発表したりする時間を確保しましょう。

## (6) ゲストティーチャーの活用（中学校）

地域の人材をゲストティーチャー（G T）としてお願いしたいのですが、どのような活用の仕方がありますか。

地域に開かれた道徳教育を展開するために、道徳授業への保護者や地域の人々の参加や協力により、実体験に基づいた内容について聞いたり、生徒へのアドバイスを受けたりして、工夫した授業をつくることも大切です。

### 実践事例の紹介

#### 1 資料と似た体験を紹介してもらう

- 主題名：理想の現実
- G T：社会福祉活動に取り組んでいる人  
信念をもちアフリカで働く医師の生き方を考えた後、地域で高齢者等のために懸命に取り組むG Tの話聞くことで、価値ある活動を身近に感じることができた。

#### 2 生徒へアドバイスをしてもらう

- 主題名：友情・信頼
- G T：食生活改善推進委員  
G Tから精力的な活動を支えてくれる友だちの存在を聞いた後、班で友だちの大切さについて意見交換をする中で、アドバイスを受けた。そうすることで、生徒は、自分の友だちへの接し方などを見つめ直すことができた。



#### 【生徒のワークシート】

班で話し合う時、G Tの方も一緒に参加してくださいました。G Tの方が友だちとの経験を話してくださったときに、友だちってすごいなあと思いました。また、G Tの方と授業をしたいです。

#### 3 中心的な資料を提供してもらう

- 主題名：社会連帯
- G T：支援を受けた人、支援した人  
お子さんの心臓手術費を募金活動を通して支援を受けた人の心の葛藤や感謝の思いと、助けたい一心でボランティアに取り組んだ人の思いをインタビュー形式で引き出すことにより、2人のG Tの願いから、よりよい社会の在り方について考えを深めることができた。

### ゲストティーチャーの活用

- ◎ 家庭や地域社会との多様な連携の在り方を考えましょう。
- ◎ 学校での道徳教育への参加や協力について、日頃から家庭や地域社会に情報提供をしましょう。
- ◎ G Tの道徳授業での役割について、事前に十分な打ち合わせをしておきましょう。